

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成30年12月18日
タイトル	地域の方へ思いを込めて感謝祭！2018
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成30年11月21日（水）福山市立金江小学校で、児童全員で行った農業体験で収穫した米などの食材を使って調理し、地域の方を招いて感謝祭を開催されましたので取材しました。

学校近くのほ場で栽培された米とサツマイモ、葱、ニンジン、大根、白菜を使い、全児童が手分けしておむすびと豚汁を作りました。6年生が班長になり体育館で1から4年生と一緒におむすびを作るチームと5、6年生で豚汁を作るチームに分けられました。

体育館では、6年生がリーダーとなり運ばれてきたおひつに一杯の炊きたてごはんをお椀にラップを敷いてごはんをつぎ、低学年の子どもから順におむすびを作ります。最初は「熱い」と言って恐々おむすびを作っていましたが、段々上手になり「三角にしたよ」と見せてくれました。沢山作ってもうすぐ終わりというところでもう一つおひつが運ばれてきて、みんなで一生懸命作って山盛りのおむすびができました。



5、6年生は、手伝いに来てくださった保護者の方や先生に教えていただきながら一緒に豚汁を作りました。具材の多くは子ども達が作った野菜です。模造紙に書いてあるレシピを見ながら8班に分かれ、それぞれ40人前の豚汁を作りました。子ども達が作った大根、サツマイモ、白菜は大きくて、ニンジンや葱も新鮮で、調理室は新鮮な野菜の瑞々しい香りや出汁のいい香りが広がりました。子ども達も「このサツマイモ大きいね。」言いながら誇らしい表情で皮を剥いたり、包丁で切ったりしていました。中には手の平に豆腐をのせて包丁で切っている男の子がいて同じ班の子に「包丁をまっすぐおろせば絶対に手を切ることはないよ。」と教えていました。



みんなで手分けして食材を切りました！



達人の包丁さばきです！

受付を担当した子どもは、来場者へ笑顔で挨拶しスリッパを出しお土産のお米を手渡して案内していました。招待されたのは、今年お世話になったゲストティーチャーや地域の方・保護者ボランティアです。

感謝祭では、まず、校長先生から地域の方にお礼が伝えられました。「農業体験、学校での様々な活動、登下校の見守りなど大勢の地域の方々が金江小学校に携わっておられ子ども達が生き生きしているのは地域の皆様のおかげです。」と話されました。

地域の皆さんを一人ずつ紹介され、いよいよ会食です。体育館に4チームに分かれて輪になって座り、それぞれ地域の方を招きます。椅子がいい方には椅子を用意し、子どもと一緒に座る方には座布団を用意しました。大人も子どもも輪になって座り、子ども達が配膳してくれ、全員で合掌していただきました。おむすび2個と豚汁が、おいしくてみんなおかわりしました。近くに座っていた男の子はおむすび8個をペロッと食べてしまいました。普段は食が細い子ども先生がびっくりされるほどおにぎりを食べていました。

みんなが食べ終わる頃、5年生が米作りについてプレゼンテーションをしました。米作りの大変さや米作りを通して命の尊さを学んだことや一生懸命作ったお米を食べる喜びを発表しました。5年生が「みんなで作ったお米はおいしいですか。」と呼びかけると体育館いっぱいの拍手が起き「おいしかったよ」声があがりました。300㎡のほ場で栽培した米の収穫量は150kgで、感謝祭のおにぎりのため炊かれた米は29kgでした。

1、2、3年生からは地域の方へ手作りのメダルをプレゼントし、終わりの言葉では「地域の皆様に感謝の気持ちを込めて、これからも元気にがんばりますので見守ってください。」と挨拶しました。



出口では5年生がアーチを作り地域の方を見送りました。

地域の方は笑顔で子ども達と握手やハイタッチをしておられました。

地域の方や子ども達の笑顔がとても印象に残りました。



今回の感謝祭では、農業体験や学校の活動、登下校など地域でお世話になって方への感謝の気持ち、食べ物をいただくことへの感謝の気持ちが子ども達から伝わりました。また、参加された地域の方がとても喜んでおられるのが伝わり温かい気持ちになりました。

水土里ネット福山は、田植え、稲刈り取材してきましたが、収穫祭では子ども達も地域の方々も、その喜びの表情は格別なものでした。これからも21世紀土地改良区創造運動を通して、子ども達と地域の絆を発信してまいります。